

「高等学校情報科『情報 I』教員研修用教材」 第 3 章への PyPEN の適用

中西渉

watayan@meigaku.ac.jp
名古屋高等学校

2020 年 2 月 15 日 (CE153)

- ① はじめに
- ② 先行研究
- ③ PyPEN について
- ④ 「教材」への対応
- ⑤ 考察
- ⑥ おわりに

- ① はじめに
- ② 先行研究
- ③ PyPEN について
- ④ 「教材」への対応
- ⑤ 考察
- ⑥ おわりに

1 はじめに

新学習指導要領（2022年度～）

必履修科目「情報Ⅰ」(3) コンピュータとプログラミング

→ 高校生全員がプログラミングを学習... 何を使う？

Python が有力？

- 人工知能，データサイエンス
- 文部科学省の「高等学校情報科『情報Ⅰ』教員研修用教材」¹
第3章に Python
 - 他言語版も出るのだけど...
 - 最初に出たことのインパクト

¹以下では「教材」と呼ぶ

DNCL（大学入試センター試験「情報関係基礎」第3問の言語）の学習環境

- PEN
- PenFlowchart（フローチャートを追加）
- WaPEN（Web アプリ化）

流行りに乗って Python「風」にアレンジ → PyPEN

「教材」の JavaScript 版, VBA 版が公開

- Python 版のプログラムだけ差し替え
- 対応できない学習がいくつかある

だったら PyPEN でも役に立つのでは？

- ① はじめに
- ② 先行研究
- ③ PyPEN について
- ④ 「教材」への対応
- ⑤ 考察
- ⑥ おわりに

2.1 Web 上のプログラミング学習環境

Web ブラウザで動くプログラミング学習環境
DNCL に限っても

- WaPEN
- Bit Arrow の DNCL (どんくり)
- Tetra
- BlocklyPEN
- wPEN

Bit Arrow は Python にも対応

さまざまな言語に対応しているサイト

- Bit Arrow
- paiza.io
- track
- WandBox
- ...

2.2 プログラミング学習環境における統計機能

ドリトル...統計・グラフ機能を実装

オンライン版は Web ストレージを使ってデータ読み込みが可能

2.3 「教材」に関する検討

兼宗ら [14]

- 収録予定言語が各学習に対応しているか調査
- 言語によっては外部ライブラリが必要

岡本ら [15]

- JavaScript でほぼ全部の学習が可能
- Python でも外部ライブラリ使ってるのでは？

[14] 兼宗進, 本多佑希「高等学校『情報 I』の研修資料におけるプログラミングの言語の扱い」SSS2019

[15] 岡本雄樹, 辰己丈夫「高等学校『情報 I』の研修資料を JavaScript 言語で実施するうえでの検討」CE151(2019)

- 1 はじめに
- 2 先行研究
- 3 PyPEN について**
- 4 「教材」への対応
- 5 考察
- 6 おわりに

3.1 概要

PyPEN とは...

- Web ブラウザ上で動くプログラミング学習環境
- DNCL を Python 「風」 にアレンジした独自言語
- コード ↔ フローチャート
- JavaScript だけで実装

PyPEN の実行画面

新規 実行 ステップ実行 リセット フローチャート コード→フローチャート コード→Python

Upload ファイルを選択 選択されていません Download ファイル名:

問題選択 採点

```

1 「サイコロを60回振って出た目の回数を数えるシミュレ
2 ション」を表示する
3 c←[0,0,0,0,0,0]
4 aを1から60まで1ずつ増やしながら繰り返す：
5   b←random(5)
6   c[b]←c[b]+1
7   bを0から5まで1ずつ増やしながら繰り返す：
   c[b]を表示する

```

```

サイコロを60回振って出た目
の回数を数えるシミュレーシ
ョン
11
4
11
13
9
12
---

```

+ 0 -

入力 (整数) 入力 (実数) 入力 (文字列) 入力 (真偽) 出力 改行無出力 代入

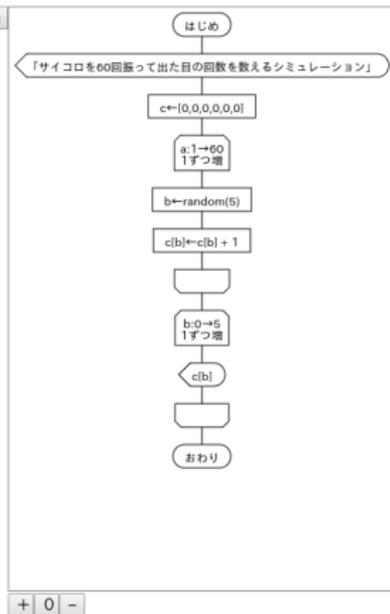
もし もし~そうでなければ

~の間, 繰り返す 増やしながら 減らしながら 繰り返しを抜ける

関数 手続き

サンプル1 サンプル2 サンプル3 サンプル4 サンプル5 サンプル6 サンプル7 サンプル8

[マニュアル](#)



+ 0 -

変数確認画面はないけど...

```

1  a←3
2  b←5
3  変数を確認する
4  c←a
5  a←b
6  b←c
7  変数を確認する

```

```

*** 変数確認 ***
a:3
b:5
*** 変数確認 ***
a:5
b:3
c:3
---
```

構文エラー表示にパッチ → 日本語メッセージ

```

1  a←3
2  b←5
3  aとか表示する

```

```

構文エラーです
3行目にエラー。
★の近くに不明なテキスト。
a←3b←5aと★が表示する...
```

3.2 Python 「風」 言語

Python 「風」とはいうものの...
インデントでブロックを表現しているだけ
（「なでしこ」っぽい？）

DNCL との比較

PyPEN

もし～ならば：

命令

そうでなければ：

命令

DNCL

もし～ならば

| 命令

を実行し，そうでなければ

| 命令

を実行する

PyPEN

～の間繰り返す：

命令

DNCL

～の間，

| 命令

を繰り返す

変数について

- 定義の廃止
- 型を持たない（値は型を持つ）
- 配列の添字に文字列も使える（連想配列っぽい）

関数・手続きについて

- 関数... 命令や計算の中で使う。値を返す
- 手続き... それ自体が命令。値を返さない

関数の定義

関数 関数名 (引数,...)
命令
～を返す

手続きの定義

手続き 手続き名 (引数,...)
命令

3.3 サンプルプログラム呼び出しボタン

新規 実行 ステップ実行 リセット 実行フローチャート フローチャート コードフローチャート コード→Python
 Upload ファイルを選択 選択されていません Download ファイル名:
 問題選択

```

1 a←0
2 b←random(8)+1
3 「1から9の数字を当ててください」を表示する
4 a!=bの間繰り返し返す:
5 aに整数を入力する
6 aを表示する
7 もしa>bならば:
8 「大きい」を表示する
9 そうでなければ:
10 もしa<bならば:
11 「小さい」を表示する
12 「あたり」を表示する
  
```

+ 0 -

入力 (整数) 入力 (小数) 入力 (文字列) 入力 (真偽) 出力 改行無出力 代入
 もし もし~そうでなければ
 ~の間, 繰り返し返す | 増やしながら 減らしながら 繰り返しを抜ける
 閉数 手続き

サンプル1 **サンプル2** サンプル3 サンプル4 サンプル5 サンプル6 サンプル7 サンプル8

[マニュアル](#)

sample.js

```

"use strict";

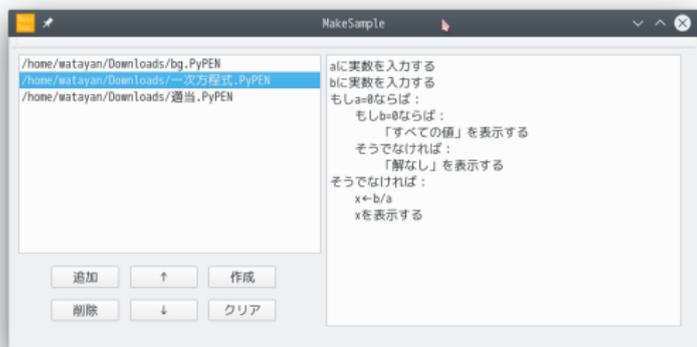
var sample=[
"a を 1 から 10 まで 1 ずつ増やしながら繰り返す:\n"+
"   b を 1 から a まで 1 ずつ増やしながら繰り返す:\n"+
"       「☆」を改行なしで表示する\n"+
"       「」を表示する"
,
"a ← 0\n"+
"b ← random(8)+1\n"+
"「1 から 9 の数字を当ててください」を表示する\n"+
"a!=bの間繰り返し返す:\n"+
"   a に整数を入力する\n"+
"   a を表示する\n"+
"   もし a>b ならば:\n"+
"       「大きい」を表示する\n"+
"   そうでなければ:\n"+
"       もし a<b ならば:\n"+
"           「小さい」を表示する\n"+
"       「あたり」を表示する"
,
"「サイコロを 60 回振って出た目の回数を数えるシミュレーション」を表示する\n"+
"c ← [0,0,0,0,0,0]\n"+
"a を 1 から 60 まで 1 ずつ増やしながら繰り返す:\n"+
"   b ← random(5)\n"
]
  
```

sample.js の編集は面倒

→ MakeSample を開発

- サンプルプログラムをファイルに保存

→ sample.js にまとめる



Qt で作成

→ 複数の OS で使える

→ 「Web アプリにしたら」という助言

3.4 自動採点

新規 実行 ステップ実行 リセット * フローチャート コードフローチャート コード→Python

Upload ファイルを選択 選択されていません Download ファイル名:

Q6 曜日の計算 採点

3つの整数 (西暦年, 月, 日) を受け取って,
その日の曜日を番号 (0:日曜, 1:月曜, ..., 6:土曜) で表示しなさい。

```

1 yに整数を入力する
2 mに整数を入力する
3 dに整数を入力する
4 j←y//100
5 k←y%100
6 h←d+(13*m+8)//5+k//4+j//4+5*k
7 h%7を表示する
8

```

```

*** 採点開始 ***
ケース1... 成功
ケース2... 成功
ケース3... 失敗
結果が違います。
ケース4... 失敗
結果が違います。
ケース5... 成功
ケース6... 失敗
結果が違います。
ケース7... 成功
ケース8... 成功
ケース9... 失敗
結果が違います。
--- 不合格 ---

```

+ 0 -

同様に MakeAnswer を開発

answer.js

```

"use strict";
var Quizzes=[
new Quiz(' 一次方程式',
' 一次方程式 ax=b の a と b を受け取って, x の値を表示しなさい。<BR>ただし, 解がないときは「解なし」, x が何でもいいときは「すべての値」と表示しなさい。',
[[ '2', '6'], [ '2', '5'], [ '1.5', '3.0'],
[ '0', '0'], [ '0', '1'], [ '1', '0'], ],
[ '3.0', '2.5', '2.0', ' すべての値', ' 解無し', '0.0', ],
100),
new Quiz(' 大小関係',
' 2 つの整数を受け取って, 大きい方を表示しなさい。',
[[ '23', '21'], [ '100', '200'], [ '10', '10'], [ '-13', '12'], ],
[ '23', '200', '10', '12', ],
100),
new Quiz(' 曜日の計算',
' 3 つの整数 (西暦年, 月, 日) を受け取って, <br>その日の曜日を番号 (0:日曜, 1:月曜, ..., 6:土曜) で表示しなさい。',
[[ '1966', '12', '20'], [ '2019', '5', '24'], [ '2019', '1', '1'],
[ '2019', '1', '31'], [ '2019', '3', '1'], [ '2020', '1', '1'],
[ '2020', '3', '1'], [ '2100', '3', '1'], [ '2100', '2', '1'], ],
[ '2', '5', '2', '4', '5', '3', '0', '1', '1', ],
100),

```

3.5 Python コードの出力

新規 実行 ステップ実行 リセット フローチャート **コード→フローチャート** **コード→Python** はじめ

Upload ファイルを選択 選択されていません [Download](#) ファイル名:

問題選択

```

1 「サイコロを60回振って出た目の回数を数えるシミュレ
2 ション」を表示する
3 c←[0,0,0,0,0,0]
4 aを1から60まで1ずつ増やしながら繰り返す:
5   b←random(5)
6   c[b]←c[b]+1
7 bを0から5まで1ずつ増やしながら繰り返す:
   c[b]を表示する

```

+ 0 -

入力 (整数) 入力 (実数) 入力 (文字列) 入力 (真偽)

もし

~の間, 繰り返す

関数

サンプル1 サンプル2 サンプル3 サンプル4 サンプル5 サンプル6 サンプル7 サンプル8

[マニュアル](#)

Pythonに書き換えたコード - Google Chrome

watayan.net/prog/PyPEN/subwindow.html

```

import random
print('サイコロを60回振って出た目の回数を数えるシミュレーション')
c = [0,0,0,0,0,0]
for a in range(1,60+1,1):
    b = random.randint(0,5)
    c[b] = c[b] + 1
for b in range(0,5+1,1):
    print(c[b])

```

3.6 簡単なグラフ機能

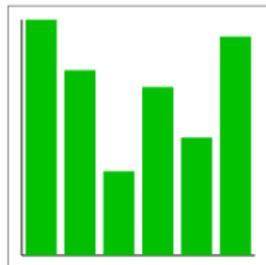
新規 実行 ステップ実行 リセット * フローチャート コード→Python
 Upload ファイルを選択 選択されていません Download ファイル名:
 問題選択 ▼ 採点

```

1 「サイコロを60回振って出た目の回数を数えるシミュレ
2 ション」を表示する
3 c←[0,0,0,0,0,0]
4 aを1から60まで1ずつ増やしながら繰り返す:
5     b←random(5)
6     c[b]←c[b]+1
7 cを表示する
   棒グラフ描画(200,200,c)
  
```

```

サイコロを60回振って出た目
の回数を数えるシミュレシ
ョン
[14,11,5,10,7,13]
---
  
```



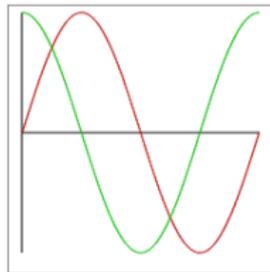
新規 実行 ステップ実行 リセット * フローチャート コード→Python
 Upload ファイルを選択 選択されていません Download ファイル名:
 問題選択 ▼ 採点

```

1 pi←3.1415926535
2 aを0から360まで1ずつ増やしながら繰り返す:
3     b[a]←sin(a*pi/180)
4     c[a]←cos(a*pi/180)
5     線グラフ描画(200,200,[b,c])
  
```

```

---
  
```



1次元配列・2次元配列の両方に対応したい
 散布図も必要？

- ① はじめに
- ② 先行研究
- ③ PyPEN について
- ④ 「教材」への対応**
- ⑤ 考察
- ⑥ おわりに

4.1 学習 11 コンピュータの仕組み

オーバーフローに関して

例： 1.8×10^{308} を変数に代入すると...

JavaScript Infinity になるが実行可能

PyPEN 構文エラーで実行できない

実行時エラーのオーバーフロー

```
1 x ← 1.7e308
2 xを表示する
3 x+0.1e308を表示する|
```

```
1.7e+308
実行時エラーです
3行目:オーバーフローしました
```

整数のオーバーフローも表現可能

```
1 x ← pow(2, 52)-1+pow(2, 52)
2 xを表示する
3 x+1を表示する
```

```
9007199254740991
実行時エラーです
3行目:整数で表される範囲を越え
ました
```

小数計算の誤差も OK

1	0.28-0.27を表示する	<pre>0.010000000000000009 ---</pre>
1 2	0.1*2=0.2を表示する 0.1*3=0.3を表示する	<pre>true false ---</pre>

4.2 学習 12 外部装置との接続

一切対応していない

4.3 学習 13 基本的プログラム

「順次」「分岐」「反復」... 基本的なものなので OK

4.4 学習 14 応用的プログラム

配列・リスト 基本的なものなので OK

乱数 基本的なものなので OK

関数 基本的なものなので OK

Web API 困った...

CORS の制限に抵触

拒否されるケース

The screenshot shows the Chrome DevTools Network tab with a request to `https://api.syosetu.com/novelapi/api/`. The request headers and response headers are visible. The console shows a red error message: `Access to XMLHttpRequest at 'https://api.syosetu.com/novelapi/api/' from origin 'https://watayan.net' has been blocked by CORS policy: No 'Access-Control-Allow-Origin' header is present on the requested resource.`

Name	Headers	Preview	Response	Timing	Initiator
test.html					
test.js					
api/					

General

- Request URL: `https://api.syosetu.com/novelapi/api/`
- Referrer Policy: `no-referrer-when-downgrade`

Response Headers view source

- Connection: `close`
- Content-Disposition: `inline; filename=e7510602fe717483326eef8e273cbf6e.yml`
- Content-Encoding: `gzip`
- Content-Length: `9312`
- Content-Type: `text/plain; charset=UTF-8`
- Date: `Sun, 19 Jan 2020 00:56:01 GMT`
- Server: `Apache`
- Vary: `Accept-Encoding`

Request Headers view source

- Accept: `*/*`
- Accept-Encoding: `gzip, deflate, br`
- Accept-Language: `ja,en-US;q=0.9,en;q=0.8`
- Connection: `keep-alive`
- Host: `api.syosetu.com`
- Origin: `https://watayan.net`
- Referer: `https://watayan.net/misc/test_web/test.html`
- Sec-Fetch-Mode: `cors`
- Sec-Fetch-Site: `cross-site`
- User-Agent: `Mozilla/5.0 (X11; Linux x86_64) AppleWebKit/537.36 (KHTML, like Gecko) Chrome/79.0.3945.117 Sa`

3 requests | 120 B transfer

Console What's New Request blocking

```
Access to XMLHttpRequest at 'https://api.syosetu.com/novelapi/api/' from origin 'https://watayan.net' has been blocked by CORS policy: No 'Access-Control-Allow-Origin' header is present on the requested resource.
GET https://api.syosetu.com/novelapi/api/ net::ERR_FAILED
```

許可されるケース

The screenshot shows the Chrome DevTools Network tab. The top bar includes navigation icons, tabs for Elements, Console, Sources, Network (selected), Performance, Memory, and Application. Below the tabs are controls for Preserve log, Disable cache, and Online status. A filter input is set to 'All'. A horizontal timeline at the top shows request durations from 10 ms to 80 ms. The main area displays a list of requests: test.html, test.js, and superheroes.json (highlighted in blue). The details for 'superheroes.json' are expanded, showing the 'General' and 'Response Headers' sections.

Name	Headers	Preview	Response	Timing	Initiator
test.html					
test.js					
superheroes.json					

General

- Request URL: <https://mdn.github.io/learning-area/java/>
- Request Method: GET
- Status Code: 200 (from disk cache)
- Remote Address: 185.199.108.153:443
- Referrer Policy: no-referrer-when-downgrade

Response Headers

- accept-ranges: bytes
- access-control-allow-origin: *
- age: 0
- cache-control: max-age=600
- content-encoding: gzip
- content-length: 368

外部の Web API を利用することは難しい
同じオリジンなら可能だが...意味がない

余談... 「教材」の Web API 利用例

Python JSON 形式で取得

VBA CSV 形式で取得

4.5 学習 15 アルゴリズムの比較

探索・ソートのアルゴリズム…基本的なものなので OK

4.6 学習 16 確定モデルと確率モデル

いろいろなシミュレーション

- 計算は何を使ってもできる

- グラフでの表現は?

「教材」では JavaScript は扱ってないが...

- plotly.js を使えば簡単
- Python だって matplotlib とか使ってる [15]

新規 実行 ステップ実行 リセット * フローチャート コード→Python

Upload 選択されていません [Download](#) ファイル名:

問題選択

```

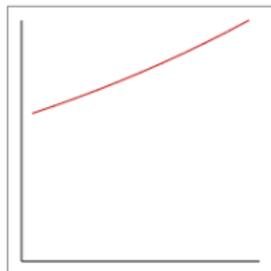
1 riritsu←0.05
2 yokin←[100000]
3 iを1から10まで1ずつ増やしながら繰り返す：
4     risoku←整数(yokin[i-1]*riritsu)
5     yokin[i]←yokin[i-1]+risoku
6 yokinを表示する
7 線グラフ描画(200,200,[yokin])
8

```

```

[100000,105000,110250,1157
62,121550,127627,134008,14
0708,147743,155130,162886]
---

```



新規 実行 ステップ実行 リセット * フローチャート コード→Python

Upload 選択されていません [Download](#) ファイル名:

問題選択

```

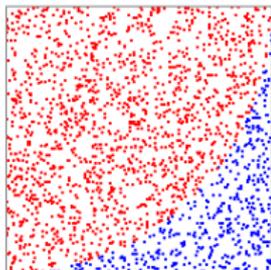
1 描画領域開く(200,200)
2 count←0
3 iを1から2000まで1ずつ増やしながら繰り返す：
4     x←random(200)
5     y←random(200)
6     もしx*x+y*y<40000ならば：
7         count←count+1
8         塗色設定(255,0,0)
9     そうでなければ：
10        塗色設定(0,0,255)
11        円塗描画(x,y,1)
12 「円周率：」とcount*4/2000を表示する
13

```

```

円周率：3.11
---

```



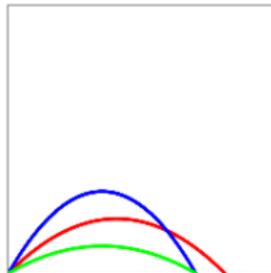
4.7 学習 17 自然現象のモデル化とシミュレーション

新規 実行 ステップ実行 リセット * フローチャート コード→Python

Upload ファイルを選択 選択されていません Download ファイル名:

問題選択 ▼ 採点

```
1 描画領域開く(200,200)
2 塗色設定(255,0,0)
3 throw(45)
4 塗色設定(0,0,255)
5 throw(60)
6 塗色設定(0,255,0)
7 throw(30)
8
9 手続き throw(angle):
10     dt←0.01
11     g←9.8
12     v0←40
13     x←0
14     y←0
15     angle←angle*3.1415926535/180
16     vx←v0*cos(angle)
17     vy←v0*sin(angle)
18     iを1から1000まで1ずつ増やしながら繰り返す:
19         vy1←vy-g*dt
20         x←x+vx*dt
21         y←y+(vy+vy1)/2*dt
```



4.8 学習 21 さまざまな形式のデータとその表現形式

キー・バリュー形式のデータ

```
1 atani["name"]←"A谷"
2 atani["homephone"]←"0**-***-1111"
3 atani["mobilemail"]←"ata@example.jp"
4 bkawa["name"]←"B川"
5 bkawa["mobilephone"]←"0**-****-2222"
6 cyama["name"]←"C山"
7 cyama["mobilephone"]←"090-****-3333"
8 cyama["email"]←"cyama@example.com"
9 member←[atani,bkawa,cyama]
10 iを0からlength(member)-1まで1ずつ増やしながらか繰り返す:
11     key←keys(member[i])
12     jを0からlength(key)-1まで1ずつ増やしながらか繰り返す:
13         key[j]と":"とmember[i,key[j]]を表示する
14     改行する
15 memberを表示する
```

```
name:A谷
homephone:0**-***-1111
mobilemail:ata@example.jp

name:B川
mobilephone:0**-****-2222

name:C山
mobilephone:090-****-3333
email:cyama@example.com

[[homephone:0**-
***-1111,mobilemail:ata@
example.jp,name:A谷],
[mobilephone:0**-
****-2222,name:B川],
[email:cyama@example.com,
mobilephone:090-
****-3333,name:C山]]
```

入れ子のデータ構造とかできるけど... PyPEN では読み込むデータがない

```
1 a←[1,[2,3,4],3,4,5]
2 a["文字列"]←"String"
3 a["配列"]←[4,5,6]
4 b["入れ子"]←[7,8,9]
5 a[3]←b
6 aを表示する
```

```
[1,[2,3,4],3,[入れ子:
[7,8,9]],5,文字列:String,
配列:[4,5,6]]
---
```

- ① はじめに
- ② 先行研究
- ③ PyPEN について
- ④ 「教材」への対応
- ⑤ 考察**
- ⑥ おわりに

5.1 Web API に関して

CORS の制限の回避策

- 1 バックエンドで Web API を操作
JavaScript だけでは済まなくなる
- 2 拡張機能を使う
それを前提にするのは無理がある

The screenshot shows the Chrome Web Store interface for the 'allow-control' extension. The search results list three extensions:

- Allow CORS: Access-Control-Allow-Origin**
 - 提供者: Muyor
 - Easily add (Access-Control-Allow-Origin: *) rule to the response header.
 - ★★★★☆ 66 仕事効率化
 - 評価ボタン: 評価する
- Moesif Origin & CORS Changer**
 - 提供者: <https://www.moesif.com>
 - This plugin allows you to send cross-domain requests. You can also c
 - ★★★★☆ 131 デベロッパー ツール
 - 追加ボタン: Chrome に追加
- CORS Unblock**
 - 提供者: balvin.perrie
 - No more CORS error by appending 'Access-Control-Allow-Origin: *' h
 - ★★★★☆ 11 デベロッパー ツール
 - 追加ボタン: Chrome に追加

The left sidebar shows navigation options like 'ホーム', '拡張機能', 'テーマ', and '機能'. The search bar contains 'allow-control'.

参考：拡張機能 Off (watayan.net から「なろう API」を呼ぶ)

The screenshot shows the Network tab in Google Chrome DevTools. The page URL is `https://watayan.net/misc/test_web/test.html`. The network log shows three requests:

Name	Status	Type	Initiator	Size	Time	Waterfall
test.html	304	document	Other	60 B	23 ms	
test.js	200	script	test.html	(disk cache)	3 ms	
api	(failed)	xhr	test.js:5	0 B	269 ms	

Summary: 3 requests, 60 B transferred, 453 B resources, Finish: 356 ms, DOMContentLoaded: 123 ms, Load: 357 ms.

Console log shows the following error:

```

Access to XMLHttpRequest at 'https://api.syosetu.com/novelapi/api/' from origin 'https://watayan.net' has been blocked by CORS policy: No 'Access-Control-Allow-Origin' header is present on the requested resource.
*GET https://api.syosetu.com/novelapi/api/ net::ERR_FAILED
  
```


5.2 File I/O に関して

□ローカルファイルの操作には制限がある
→Web ストレージを使う?

5.3 DNCL やフローチャート, Python との関係について

PyPEN は独自言語

DNCL から見ても Python から見ても中途半端?

DNCL の表現から解放されてもいいのではないか
実装したい構文はいろいろある

フローチャートに表しにくい構文は実装していない
どちらに舵を切るべきか

- ① はじめに
- ② 先行研究
- ③ PyPEN について
- ④ 「教材」への対応
- ⑤ 考察
- ⑥ おわりに

6 おわりに

「教材」の多くの学習は PyPEN でも可能
↔ 不可能なものはすごく難しい

「教材」に合わせた実装もいくつか行った

- 簡単な棒グラフ・折れ線グラフ
- 配列の添字に文字列が使える
- 連想配列のキーの配列を取得する関数 `keys`

高校現場は教科書を待っている

→ 教科書に掲載された環境がそのまま使われる（だろう）

「教材」のように別言語の「差分」が発行されないものか

PyPEN の配付について (GitHub がお薦め)

- 筆者のサイト <https://watayan.net/prog/pypen.html>
- GitHub <https://github.com/watayan/PyPEN.git>

